

(41) ポインセチア

病害虫	防除法	参考事項
アブラムシ類	(耕種的・物理的防除) 1 うり科野菜などウイルス病が発生しやすい作物では、育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。但し、果実の着色が悪くなるなすや授粉にミツバチを利用するいちごなどでは使用できない。 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。 4 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 アドマイヤーフロアブルを散布する。又はアドマイヤー 1 粒剤を株元に散布する。	○ アドマイヤーフロアブルは施設栽培での登録である。
コナジラミ類	(耕種的・物理的防除) 1 特にタバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しているので、予防策を基本とした総合防除を行う。 2 寄生範囲が広いため、ほ場内外の雑草防除などほ場衛生に努める。 3 施設では成虫の侵入防止を徹底する。0.4mm 目以下の防虫ネット、紫外線カットフィルム、反射資材等の利用が有効である。 4 夏期には露地においても発生が多くなるため、秋期より栽培(定植)の始まる作型では、施設内への成虫の侵入防止対策が特に重要である。 5 育苗期の防除に努め、コナジラミ類が寄生していない苗を定植する。鉢物など、栽培に関係のない植物は、施設内に持ち込まない。 6 連作する場合には、作と作の間に施設内に植物が存在しない期間を設け、コナジラミ類がリレーされることを避ける。 7 本圃において化学的防除を行う際は、早期発見、早期防除に重点を置く。薬剤効果に差があるので、両種の区別を的確に行う。薬剤散布を行うに当たっては、葉裏に寄生している幼虫、蛹にも必ず薬剤がかかるよう丁寧に十分な量を散布する。さらに、薬剤が株全体によく到達するよう下葉の処分を早期に行うなど工夫する。 8 施設での発生予察のために黄色粘着テープを使用する場合は、侵入防止を徹底したうえで、施設の出入口や側窓付近に張り、定期的に交換する。 9 作物上に寄生したコナジラミの施設外への逃亡・拡散を防止するため、収穫後の残さは、施設の密閉(蒸し込み)により、枯死、乾燥させた上で処分する。	